

医薬品に共通する特性と基本的な知識

問 1

医薬品の本質に関する次の記述の正誤について、正しい組合せを下欄から選びなさい。

- a すべての医薬品は、人体に取り込まれて作用し、効果を発現させるものである。
- b 医薬品は、人の疾病の診断、治療若しくは予防に使用されること、又は人の身体の構造や機能に影響を及ぼすことを目的とする生命関連製品であり、人体に対して使用されないものは含まない。
- c 医療用医薬品には、一般の生活者が自ら選択し、使用するものもあるため、登録販売者が販売に関与し、専門用語を分かりやすい表現で伝えるなどの適切な情報提供を行うことが不可欠である。
- d 一般用医薬品は、製造販売業者による製品の回収、廃棄、販売の停止等の措置がなされることがあるため、医薬品の販売等を行う者においても、製造販売業者等からの情報に日頃から留意しておくことが重要である。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	誤	正	誤	正
3	正	誤	誤	誤
4	誤	誤	正	正
5	誤	誤	誤	正

問2

医薬品のリスク評価に関する次の記述の正誤について、正しい組合せを下欄から選びなさい。

- a LD50 とは、動物実験により求められる50%中毒量のことであり、薬物の毒性の指標として用いられる。
- b 新規に開発される医薬品のリスク評価では、医薬品開発の国際的な標準化（ハーモナイゼーション）制定の流れのなかで、医薬品毒性試験法ガイドラインに沿って、単回投与毒性試験、反復投与毒性試験、生殖・発生毒性試験、遺伝毒性試験、がん原性試験、依存性試験、抗原性試験、局所刺激性試験、皮膚感作性試験、皮膚光感作性試験などの毒性試験が実施されている。
- c ヒトを対象とした臨床試験における効果と安全性の評価基準には、国際的にGCPが制定されている。
- d 医薬品に対しては、製造販売後の調査及び試験の実施基準としてGPPSが制定されている。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	誤	正	正	正
3	正	誤	誤	正
4	誤	誤	正	誤
5	誤	正	誤	誤

問3

健康食品に関する次の記述の正誤について、正しい組合せを下欄から選びなさい。

- a 健康増進や維持の助けとなる食品は一般的に「健康食品」として呼ばれ、広く使用されている。
- b 栄養機能食品については、各種ビタミン、ミネラルに対して「特定の保健機能の表示」を行わなければならない。
- c 健康補助食品（いわゆるサプリメント）の中にはカプセル、錠剤等の医薬品と類似した形状で発売されているものもあり、誤った使用方法により健康被害を生じた例も報告されている。
- d 機能性表示食品は、疾病に罹患していない者の健康の維持及び増進に役立つ旨又は適する旨を表示するものであり、疾病リスクの低減に係るものも含まれる。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	正	誤	正
3	誤	誤	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	正	誤	正	正

問4

医薬品の副作用に関する次の記述について、（ ）に入れるべき字句の正しい組合せを下欄から選びなさい。

世界保健機関（WHO）の定義によれば、医薬品の副作用とは、「疾病の（ a ）、診断、治療のため、又は身体の機能を（ b ）するために、人に（ c ）量で発現する医薬品の有害かつ意図しない反応」とされている。

下欄

	a	b	c
1	検査	維持	用いられる最小
2	検査	正常化	通常用いられる
3	予防	維持	用いられる最小
4	予防	正常化	通常用いられる
5	予防	維持	通常用いられる

問5

アレルギーに関する次の記述の正誤について、正しい組合せを下欄から選びなさい。

- a 免疫機構が過敏に反応して、体の各部位に生じる炎症をアレルギー症状という。
- b アレルギーは、一般的にあらゆる物質によって起こり得るものであるため、医薬品の薬理作用等とは関係なく起こり得るものである。
- c アレルゲンとなり得る医薬品の添加物としては、黄色4号（タートラジン）、カゼイン、亜硫酸塩（亜硫酸ナトリウム、ピロ硫酸カリウム等）等が知られている。
- d アレルギー症状は、流涙や眼の痒み等の結膜炎症状、鼻汁やくしゃみ等の鼻炎症状、蕁麻疹や湿疹、かぶれ等の皮膚症状、血管性浮腫のようなやや広い範囲にわたる腫れ等が生じることが多い。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	誤	誤	誤	正
3	正	正	正	正
4	正	誤	正	誤
5	正	正	誤	正

問6

小児の医薬品使用に関する次の記述の正誤について、正しい組合せを下欄から選びなさい。

- a 医薬品の使用上の注意において、おおよその目安として、乳児は1歳未満、幼児は5歳未満の年齢区分が用いられている。
- b 小児は大人と比べて身体の大きさに対して腸が短く、服用した医薬品の吸収率が相対的に低い。
- c 小児は、肝臓や腎臓の機能が未発達であり、医薬品の成分の代謝・排泄に時間を要しない。
- d 医薬品によっては、形状等が小児向けに作られていないため、小児に対して使用しないことなどの注意を促している場合があるほか、5歳未満の幼児に使用される錠剤やカプセル剤などの医薬品では、服用時に喉につかえやすいので注意するよう添付文書に記載されている。

	a	b	c	d
1	誤	誤	誤	正
2	正	誤	正	正
3	正	正	正	正
4	誤	正	誤	誤
5	誤	誤	正	誤

問7

他の医薬品や食品との相互作用に関する次の記述の正誤について、正しい組合せを下欄から選びなさい。

- a 一般用医薬品において、かぜ薬、解熱鎮痛薬、鎮静薬、鎮咳去痰薬、アレルギー用薬等では、成分や作用が重複することが多く、通常、これらの薬効群に属する医薬品の併用は避けることとされている。
- b 酒類（アルコール）をよく摂取する者は、肝臓の代謝機能が低下していることが多い。
- c 食品中に医薬品成分と同じ物質が存在するものもあり、それらを含む医薬品と食品を一緒に服用すると過剰摂取となるものがある。
- d 注射薬や外用薬であっても、食品によって医薬品の作用や代謝に影響を受ける可能性がある。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	正	正	正	誤
3	誤	誤	正	誤
4	正	誤	誤	正
5	誤	正	誤	正

問 8

高齢者の医薬品使用に関する次の記述の正誤について、正しい組合せを下欄から選びなさい。

- a 医薬品の使用上の注意においては、おおよその目安として65歳以上を「高齢者」としている。
- b 一般に高齢者は生理機能が衰えつつあり、特に、肝臓や腎臓の機能が低下していると医薬品の作用が現れにくくなる。
- c 高齢者は、喉の筋肉が衰えて飲食物を飲み込む力が弱まっている（嚥下障害）場合があり、内服薬を使用する際に喉に詰ませやすい。
- d 高齢者への一般用医薬品の販売等に際しては、実際にその医薬品を使用する高齢者の個々の状況に即して、適切に情報提供や相談対応がなされることが重要である。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	誤	誤	誤	正
3	正	誤	正	正
4	正	誤	誤	誤
5	正	正	正	正

問9

医薬品の品質に関する次の記述の正誤について、正しい組合せを下欄から選びなさい。

- a 医薬品は、高い水準で均一な品質が保証される必要があり、配合されている成分には、高温や多湿、光等によって品質の劣化を起しにくいものが多い。
- b 医薬品は、適切な保管・陳列がされていれば経時変化による品質の劣化は避けることができる。
- c 一般用医薬品は、購入された後、すぐに使用されるとは限らず、家庭における常備薬として購入されることも多いことから、外箱等に記載されている使用期限から十分な余裕をもって販売等がなされることが重要である。
- d 医薬品が保管・陳列される場所については、清潔性が保たれるとともに、その品質が十分保持される環境となるよう留意される必要がある。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	誤	誤	正	正
3	誤	正	誤	正
4	正	正	誤	正
5	正	誤	誤	誤

問10

一般用医薬品の定義に関する次の記述について、()に入れるべき字句の正しい組合せを下欄から選びなさい。

一般用医薬品は、医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の保持に関する法律において「医薬品のうち、その効能及び効果において人体に対する作用が著しくないものであって、(a) その他の医薬関係者から提供された情報に基づく需要者の選択により使用されることが目的とされているもの ((b) を除く。)」と定義されている。

	a	b
1	登録販売者	要指導医薬品
2	薬剤師	要指導医薬品及び第一類医薬品
3	登録販売者	医療用医薬品
4	薬剤師	要指導医薬品
5	登録販売者	要指導医薬品及び第一類医薬品

問 1 1

医療機関で治療を受けている人への配慮に関する次の記述の正誤について、正しい組合せを下欄から選びなさい。

a 生活習慣病等の慢性疾患の種類や程度によっては、一般用医薬品の有効性や安全性に影響を与える要因となることがあり、また、一般用医薬品を使用することによって症状が悪化したり、治療が妨げられることもある。

b 医療機関・薬局で交付された薬剤を使用している人について、疾患の種類や程度によっては、一般用医薬品との併用により症状を悪化させることがあり注意が必要であるため、一般用医薬品との併用の可否を判断することを登録販売者に義務付けている。

c 過去に医療機関で治療を受けていたという場合には、どのような疾患について、いつ頃かかっていたのかを踏まえ、購入者等が使用の可否を適切に判断することができるよう情報提供がなされることが重要である。

d 医療機関での治療は特に受けていない場合であっても、医薬品の種類や配合成分等によっては、特定の症状がある人が使用するとその症状を悪化させるおそれがある。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	誤
4	正	誤	誤	正
5	誤	誤	正	誤

問 1 2

販売時のコミュニケーションに関する次の記述の正誤について、正しい組合せを下欄から選びなさい。

- a 医薬品の販売等に従事する専門家からの情報提供は、説明した内容が購入者にどう理解され、行動に反映されているか、実情を把握しながら行うことにより、その実効性が高まる。
- b 一般用医薬品の場合、必ずしも情報提供を受けた本人が医薬品を使用するとは限らないことから、販売時に確認しておきたい基本的事項として、「その医薬品を使用する人が医療機関で治療を受けていないか」という事項が挙げられる。
- c 家庭における常備薬として購入される場合は、すぐ使用されないため、情報提供を行う必要はない。
- d 情報提供を受ける購入者が医薬品を使用する本人で、かつ、現に症状がある場合には、言葉によるコミュニケーションから得られる情報のほか、その人の状態や様子全般から得られる情報も、状況把握につながる手がかりとなる。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	誤	誤	正	誤
4	正	誤	誤	正
5	誤	正	誤	正

問 13

妊婦若しくは妊娠していると思われる女性又は母乳を与える女性（授乳婦）に関する次の記述の正誤について、正しい組合せを下欄から選びなさい。

a 授乳婦が使用した医薬品の一部が乳汁中に移行することが知られていても、通常使用の範囲では具体的な悪影響は判明していないものもあり、購入者等から相談があったときには、乳汁に移行する成分やその作用等について適切な説明がなされる必要がある。

b 胎児は、母体との間に存在する胎盤を通じて栄養分を受け取っており、胎盤には胎児の血液と母体の血液とが混合する仕組みがある。

c 一般用医薬品においては、妊婦が使用した場合における安全性に関する評価は困難であるため、妊婦の使用については「相談すること」としているものが多い。

d レチノール含有製剤は、妊娠前後の一定期間に通常の用量を超えて摂取すると胎児に先天異常を起こす危険性が高まるとされている。

	a	b	c	d
1	誤	正	誤	正
2	誤	誤	正	誤
3	正	誤	正	誤
4	正	誤	正	正
5	正	正	誤	誤

問 1 4

サリドマイド訴訟に関する次の記述の正誤について、正しい組合せを下欄から選びなさい。

- a 催眠鎮静剤等として販売されたサリドマイド製剤を妊娠している女性が使用したことにより、出生児に四肢欠損、耳の障害等の先天異常が発生したことに対する損害賠償訴訟である。
- b サリドマイド製剤には、一般用医薬品として販売されていた製品もある。
- c サリドマイド製剤は、催眠鎮静成分として承認され、副作用として血管新生を促進する作用があった。
- d サリドマイドの光学異性体のうち、鎮静作用はR体のみが有するとされている。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	誤	誤	正	誤
3	誤	正	誤	誤
4	正	誤	誤	正
5	正	誤	正	誤

問 1 5

一般用医薬品の役割に関する次の記述の正誤について、正しい組合せを下欄から選びなさい。

- a 軽度な疾病に伴う症状の改善
- b 生活習慣病等の疾病に伴う症状発現の予防（科学的・合理的に効果が期待できるものに限る。）
- c 生活の質（QOL）の改善・向上
- d 健康状態の自己検査

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	正	誤	誤	誤
3	誤	正	誤	正
4	正	正	正	正
5	誤	正	誤	誤

問 16

H I V 訴訟に関する次の記述の正誤について、正しい組合せを下欄から選びなさい。

a H I V 訴訟を契機として、1979年、医薬品の副作用による健康被害の迅速な救済を図るため、医薬品副作用被害救済制度が創設された。

b H I V 訴訟は、血友病患者が、ヒト免疫不全ウイルス（H I V）が混入した原料血清から製造された血液凝固因子製剤の投与を受けたことにより、H I Vに感染したことに対する損害賠償訴訟である。

c 問題となった製薬企業のみを被告として、1989年5月に大阪地裁、同年10月に東京地裁で提訴された。

d 国は、H I V感染者に対する恒久対策として、エイズ治療研究開発センター及び拠点病院の整備や治療薬の早期提供等の様々な取り組みを推進している。

	a	b	c	d
1	誤	誤	誤	正
2	誤	正	正	誤
3	誤	正	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	正	正	正	正

問 17

H I V 訴訟に関する次の記述について、() に入れるべき字句の正しい組合せを下欄から
選びなさい。

H I V 感染者に対する恒久対策のほか、医薬品の副作用等による健康被害の再発防止に向けた
取り組みも進められ、医薬品副作用被害救済・研究振興調査機構（当時）との連携による承認審
査体制の充実、製薬企業に対し従来の副作用報告に加えて（ a ）の義務づけ、緊急に必要と
される医薬品を迅速に供給するための（ b ）制度の創設等を内容とする改正（ c ）が1
9 9 6年に成立し、翌年4月に施行された。また、血液製剤の安全確保対策として検査や献血時
の間診の充実が図られるとともに、薬事行政組織の再編、情報公開の推進、健康危機管理体制の
確立等がなされた。

	a	b	c
1	研究報告	緊急輸入	血液法※
2	研究報告	早期承認	薬事法
3	感染症報告	早期承認	薬事法
4	感染症報告	緊急輸入	薬事法
5	感染症報告	緊急輸入	血液法※

※ 血液法：安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律

問 18

CJD訴訟に関する次の記述の正誤について、正しい組合わせを下欄から選びなさい。

- a クロイツフェルト・ヤコブ病（CJD）は、ウイルスが脳の組織に感染し、次第に認知症に類似した症状が現れ、死に至る重篤な神経難病である。
- b この訴訟を契機として、生物由来製品感染等被害救済制度が創設された。
- c 原因物質に汚染されたヒト乾燥硬膜の原料が、十分な化学的処理が行われないうまま製品として流通し、脳外科手術で移植されたため、CJDが発症した。
- d この訴訟を契機として、ヒト乾燥硬膜の移植の有無を確認するための患者診療録の長期保存等の措置が講じられるようになった。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	正
2	誤	誤	正	誤
3	正	誤	誤	正
4	誤	正	誤	誤
5	正	正	正	正

問 19

プラセボ効果（偽薬効果）に関する次の記述について、誤っているものを1つ選びなさい。

- 1 医薬品を使用したとき、結果的又は偶発的に薬理作用によらない作用を生じることをプラセボ効果という。
- 2 プラセボ効果は、条件付けによる生体反応や時間経過による自然発生的な変化（自然緩解など）等も関与して生じると考えられている。
- 3 医薬品を使用したときにもたらされる反応や変化には、薬理作用によるもののほか、プラセボ効果によるものも含まれている。
- 4 プラセボ効果は、客観的に測定可能な変化として現れることもあるので、その効果を目的として医薬品を使用すべきである。

問20

セルフメディケーションに関する次の記述の正誤について、正しい組合せを下欄から選びなさい。

- a 世界保健機関（WHO）によれば、セルフメディケーションとは、「自分自身の健康に責任を持ち、軽度な身体の不調は自分で手当てする」こととされている。
- b セルフメディケーションの主役は、一般の生活者である。
- c 近年、急速な高齢化の進展や生活習慣病の増加など疾病構造の変化、生活の質の向上への要請等に伴い、専門家によるアドバイスなしで、身近にある一般用医薬品を利用する「セルフメディケーション」の考え方がみられるようになってきた。
- d 登録販売者においては、一般用医薬品の販売に従事する唯一の医薬関係者として、適切なセルフメディケーションの普及定着、医薬品の適正使用の推進のための啓発活動に積極的に参加、協力することが期待される。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	誤	正	誤
3	誤	正	誤	正
4	正	正	正	誤
5	正	誤	正	正

主な医薬品とその作用

問 2 1

かぜ（感冒）及びかぜ薬（総合感冒薬）に関する次の記述について、正しいものの組合せを下欄から選びなさい。

- a かぜの約8割は、細菌の感染が原因であるが、それ以外にウイルスの感染や、まれに冷氣や乾燥、アレルギーのような非感染性の要因による場合もある。
- b かぜ薬は、咳で眠れなかったり、発熱で体力を消耗しそうなときなどに、それら諸症状の緩和を図る対症療法薬である。
- c かぜは、単一の疾患ではなく、医学的にはかぜ症候群といい、通常は数日～1週間程度で寛解し、予後は良好である。
- d 発熱、咳、鼻水など症状がはっきりしている場合には、症状を効果的に緩和させるため、かぜ薬（総合感冒薬）を選択することが最適である。

1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (c、d)

問 2 2

次のうち、15歳未満の小児で水痘（水疱瘡）又はインフルエンザにかかっているときは使用を避ける必要がある解熱鎮痛成分を1つ選びなさい。

- 1 アセトアミノフェン
- 2 コデインリン酸塩
- 3 エテンザミド
- 4 メチルエフェドリン
- 5 クロルフェニラミンマレイン酸塩

問23

グリチルリチン酸に関する次の記述の正誤について、正しい組合せを下欄から選びなさい。

- a グリチルリチン酸は、モルヒネと同じ基本構造を持つことから、鎮痛作用を示すと考えられている。
- b 医薬品では1日の摂取量が、グリチルリチン酸として、200mgを超えないよう用量が定められている。
- c グリチルリチン酸を大量に摂取すると、偽アルドステロン症を生じるおそれがある。
- d グリチルリチン酸は、甘味料として一般食品や医薬部外品などにも広く用いられている。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	正	正	誤	誤
3	誤	誤	誤	正
4	誤	正	正	誤
5	誤	正	正	正

問24

眠気を促す薬とその配合成分等に関する次の記述の正誤について、正しい組合せを下欄から選びなさい。

a 抗ヒスタミン成分を主薬とする催眠鎮静薬は、睡眠改善薬として一時的な睡眠障害の緩和に用いられるだけでなく、慢性的に不眠症状がある人や、医療機関において不眠症の診断を受けている人も対象としている。

b 小児及び若年者では、ジフェンヒドラミン塩酸塩により眠気とは反対の神経過敏や中枢興奮などが現れることがある。

c 抑肝散は、体力中等度をめやすとして幅広く用いることができ、神経がたかぶり、怒りやすい、イライラなどがあるものの神経症、不眠症、小児夜なき、小児疳症、歯ぎしり、更年期障害、血の道症に適している。

d プロモバレリル尿素を含有する催眠鎮静薬は、胎児に障害を引き起こす可能性はないため、妊婦の睡眠障害の緩和に適している。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	正	誤	誤
3	誤	誤	誤	正
4	誤	正	正	誤
5	誤	正	正	正

問25

鎮暈薬（乗物酔い防止薬）に配合される成分について、正しいものの組合せを下欄から選びなさい。

a	スコポラミン臭化水素酸塩水和物	—	抗コリン成分
b	メクリジン塩酸塩	—	鎮静成分
c	ジメンヒドリナート	—	抗ヒスタミン成分
d	ジプロフィリン	—	局所麻酔成分

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問 2 6

かぜの症状緩和に用いられる次の漢方処方製剤のうち、構成生薬としてカンゾウ及びマオウの両方を含むものの組合せを下欄から選びなさい。

- a 葛根湯
- b 小青竜湯
- c 麦門冬湯
- d 小柴胡湯

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問 2 7

鎮咳去痰薬に関する次の記述の正誤について、正しい組合せを下欄から選びなさい。

- a コデインリン酸塩、ジヒドロコデインリン酸塩については、その作用本体であるコデイン、ジヒドロコデインがモルヒネと同じ基本構造を持つ。
- b エチルシステイン塩酸塩は、痰の中の粘性タンパク質を溶解・低分子化して粘性を減少させる。
- c ノスカピン、デキストロメトルファン臭化水素酸塩、チペピジンヒベンズ酸塩は、麻薬性鎮咳成分と呼ばれる。
- d グアイフェネシンは、気道粘膜からの粘液の分泌を促進する作用を示す。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	誤
5	誤	誤	誤	正

問28

口腔咽喉薬及び含嗽薬に関する次の記述について、正しいものの組合せを下欄から選びなさい。

- a 口腔咽喉薬には、鎮咳成分や気管支拡張成分、去痰成分が配合されている。
- b 噴射式の液剤では、息を吸いながら噴射すると気管支や肺に入ってしまうおそれがあるため、軽く息を吐いたり、声を出しながら噴射することが望ましい。
- c ヨウ素系殺菌消毒成分が口腔内に使用される場合、甲状腺におけるホルモン産生に影響を及ぼす可能性がある。
- d クロロヘキシジングルコン酸塩が配合された含嗽薬は、口腔内に傷やひどいただれのある人でも強い刺激を生じることなく使用することができる。

1 (a、c) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (b、d)

問29

胃腸薬とその有効成分に関する次の記述のうち、誤っているものを1つ選びなさい。

- 1 アルジオキサは、アルミニウムを含む成分であるため、透析を受けている人は使用を避ける必要がある。
- 2 タンニン酸アルブミンに含まれるアルブミンは、牛乳に含まれるタンパク質から精製された成分であるため、牛乳にアレルギーがある人では使用を避ける必要がある。
- 3 セトラキサート塩酸塩は、代謝されてトラネキサム酸を生じるため、血栓のある人、血栓を起こすおそれのある人が使用した場合、生じた血栓が分解されにくくなることがある。
- 4 ロペラミド塩酸塩は、食あたりや水あたりの下痢にも使用できる。

問30

腸の不調を改善する目的で用いられる漢方処方製剤に関する次の記述のうち、正しいものの組合せを下欄から選びなさい。

- a 桂枝加芍薬湯は、構成生薬にカンゾウを含まない。
- b 麻子仁丸は、構成生薬としてダイオウを含む。
- c 大黃甘草湯は、体力に関わらず広く応用される。
- d 大黃牡丹皮湯は、胃腸が弱く下痢しやすい人に適している。

1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (c、d)

問3 1

腸の薬（整腸薬、止瀉薬、瀉下薬）との相互作用に関する次の記述の正誤について、正しい組合せを下欄から選びなさい。

- a 生菌成分が配合された整腸薬に、腸内殺菌成分が配合された止瀉薬を併用した場合、生菌成分の働きが腸内殺菌成分によって弱められる。
- b ヒマシ油と駆虫薬の併用は、駆虫成分が腸管内にとどまらず吸収されやすくなり、全身性の副作用を生じる危険性が高まる。
- c 食品には緩下作用（緩和な瀉下作用）を示すものはないため、食品との相互作用は考慮する必要はない。
- d 複数の瀉下薬を併用すると、激しい腹痛を伴う下痢や下痢に伴う脱水症状を生じるおそれがある。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	正	誤	正	正
3	正	正	誤	誤
4	誤	正	正	誤
5	誤	誤	誤	正

問3 2

胃腸鎮痛鎮痙薬に配合される成分に関する次の記述について、正しい組合せを下欄から選びなさい。

- a オキセサゼインは、局所麻酔作用のほか、胃液分泌を抑える作用もあるとされ、胃腸鎮痛鎮痙薬と制酸薬の両方の目的で使用される。
- b パパペリン塩酸塩は、消化管の平滑筋に直接働いて胃腸の痙攣を鎮める作用を示すとともに、胃酸分泌を抑える作用もある。
- c ブチルスコポラミン臭化物は、まれに重篤な副作用としてショック（アナフィラキシー）を生じることが知られている。
- d ロートエキスは、成分が母乳中に移行することはないので、母乳を与える女性であっても安心して使用することができる。

1 (a、c) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (b、d)

問33

浣腸薬に関する次の記述について、正しいものの組合せを下欄から選びなさい。

- a 腹痛が著しい場合や便秘に伴って吐きけや嘔吐が現れた場合には、急性腹症（腸管の狭窄、閉塞、腹腔内器官の炎症等）の可能性があるため、浣腸薬の配合成分が症状を緩和するため、積極的に使用すべきである。
- b 浣腸薬は一般に、流産・早産を誘発するおそれがあるため、妊婦又は妊娠していると思われる女性では使用を避けるべきである。
- c ソルビトールは、炭酸ガスの微細な気泡を発生することで直腸を刺激する作用を期待して用いられる。
- d グリセリンが配合された浣腸薬を、肛門や直腸の粘膜に損傷があり出血しているときに使用すると、グリセリンが傷口から血管内に入って、赤血球の破壊（溶血）を引き起こすおそれがある。

- 1 (a、c) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (b、d)

問34

駆虫薬に関する次の記述の正誤について、正しい組合せを下欄から選びなさい。

- a 腸管内に生息する虫体にのみ作用し、虫卵や腸管内以外に潜伏した幼虫には駆虫作用は及ばない。
- b 一般用医薬品の駆虫薬が対象とする寄生虫は、回虫、蟯虫及び条虫である。
- c 空腹時に使用することとされているものが多い。
- d 複数の駆虫薬を併用すると駆虫効果が高まる。

- | | a | b | c | d |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 正 | 誤 | 誤 | 正 |
| 2 | 誤 | 正 | 正 | 正 |
| 3 | 正 | 正 | 誤 | 誤 |
| 4 | 正 | 誤 | 正 | 誤 |
| 5 | 誤 | 誤 | 正 | 誤 |

問35

強心薬に関する次の記述について、()に入れるべき字句の正しい組合せを下欄から選びなさい。

一般用医薬品の強心薬は、疲労やストレス等による(a)の心臓の動きの乱れについて、心臓の働きを整えて動悸や息切れ等の症状の改善を目的として用いられる。その代表的な配合成分として、ヒキガエル科のシナヒキガエル等の毒腺の分泌物を集めた(b)やウシ科のウシの胆嚢中に生じた結石を基原とする(c)などがある。

	a	b	c
1	重度	ロクジョウ	ゴオウ
2	重度	センソ	リュウノウ
3	軽度	センソ	リュウノウ
4	軽度	ロクジョウ	リュウノウ
5	軽度	センソ	ゴオウ

問36

コレステロールと高コレステロール改善薬に関する次の記述について、正しいものの組合せを下欄から選びなさい。

a コレステロールは、細胞の構成成分で、胆汁酸や副腎皮質ホルモン等の生理活用性物質の産生に重要な物質でもある等、生体に不可欠な物質である。

b コレステロールは、水に溶けやすい物質であるため、血液中では血漿タンパク質と結合したリポタンパク質となって存在する。

c パンテチンは、高密度リポタンパク質(HDL)等の異化排泄を促進し、リポタンパクリパーゼ活性を高めて、低密度リポタンパク質(LDL)産生を高める作用があるとされる。

d 医療機関で測定する検査値として、LDLが 140mg/dL 以上、HDLが 40mg/dL 未満、中性脂肪が 150mg/dL 以上のいずれかである状態を、脂質異常症という。

- 1 (a、c) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (b、d)

問37

貧血用薬に関する次の記述の正誤について、正しい組合せを下欄から選びなさい。

- a 鉄製剤を服用すると、便が黒くなることもある。
- b ビタミンDは、消化管内で鉄が吸収されやすい状態に保つことを目的として用いられる。
- c コバルトは、赤血球ができる過程で必要不可欠なビタミンB12の構成成分であり、骨髄での造血機能を高める目的で硫酸コバルトが配合されている場合がある。
- d 鉄製剤の服用の前後30分にタンニン酸を含む飲食物（緑茶、紅茶、コーヒー、ワイン、柿等）を摂取すると、タンニン酸と反応して鉄の吸収が悪くなることもある。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	正	正	誤	誤
3	誤	正	正	正
4	誤	誤	正	誤
5	正	誤	誤	誤

問38

痔及び痔疾用薬に関する次の記述の正誤について、正しい組合せを下欄から選びなさい。

- a クロルヘキシジン塩酸塩は、肛門周囲の末梢血管の血行を促すことにより、鬱血を改善する効果を期待して、内用痔疾用薬に配合されている。
- b シコンは、ムラサキ科のムラサキの根を基原とする生薬で、新陳代謝促進、殺菌、抗炎症等の作用を期待して用いられる。
- c 痔による肛門部の炎症や痒みを和らげる成分として、ヒドロコルチゾン酢酸エステルが配合されている場合がある。
- d 痔による肛門部の創傷の治癒を促す効果を期待して、アラントインのような組織修復成分が用いられる。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	正	正	誤	誤
3	誤	正	正	正
4	誤	誤	正	誤
5	誤	正	誤	正

問 39

婦人薬に関する次の記述について、正しいものの組合せを下欄から選びなさい。

- a エチニルエストラジオールは、人工的に合成された女性ホルモンの一種であり、適用部位の腔粘膜又は外陰部から吸収されて循環血液中に移行する。
- b ジオウは、ゴマノハグサ科のアカヤジオウ等の根又はそれを蒸したものを基原とする生薬で、血行を改善し、血色不良や冷えの症状を緩和するほか、強壮、鎮静、鎮痛等の作用を期待して用いられる。
- c 桃核承気湯は、マオウを含む漢方処方製剤であり、体力中等度以上で、のぼせて便秘しがちなものの月経不順、月経困難症、月経痛に適すとされている。
- d 五積散は、ダイオウを含む漢方処方製剤であり、体力中等度、又はやや虚弱で冷えがあるものの胃腸炎、腰痛、神経痛、関節痛、月経痛、頭痛、更年期障害、感冒に適すとされるが、体の虚弱な人、胃腸の弱い人、発汗傾向の著しい人では、不向きとされる。

1 (a、b) 2 (b、c) 3 (c、d) 4 (a、d)

問 40

アレルギー用薬に配合される成分に関する次の記述について、誤っているものを1つ選びなさい。

- 1 クロモグリク酸ナトリウムは、交感神経系を刺激して血管を収縮させることにより、皮膚や鼻粘膜の炎症を和らげることを目的として配合されている。
- 2 クロルフェニラミンマレイン酸塩は、肥満細胞から遊離したヒスタミンが受容体と反応するのを妨げることにより、ヒスタミンの働きを抑える作用を示す。
- 3 ベラドンナ総アルカロイドは、鼻腔内の粘液分泌腺からの粘液の分泌を抑えるとともに、鼻腔内の刺激を伝達する副交感神経系の働きを抑えることによって、鼻汁分泌やくしゃみを抑える目的として配合されている。
- 4 プソイドエフェドリン塩酸塩は、他のアドレナリン作動成分に比べて中枢神経系に対する作用が強く、副作用として不眠や神経過敏が現れることがある。

問 4 1

眼科用薬及びその成分に関する次の記述について、正しいものの組合せを下欄から選びなさい。

- a コンタクトレンズ装着液は結膜囊に対して適用するものであるため、その全てが医薬品として製造販売されている。
- b アレルギー用点眼薬には、通常、目のアレルギー症状（流涙、目の痒み、結膜充血等）の緩和を目的とし、抗ヒスタミン成分や抗アレルギー成分が配合されている。
- c ホウ酸は、洗眼薬として用時水に溶解し、結膜囊の洗浄・消毒に用いられる。
- d ビタミンB12は、結膜や角膜の乾燥を防ぐことを目的として用いられる。

1 (a、c) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (b、d)

問 4 2

眼科用薬の使用上の注意に関する次の記述について、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 白内障と診断された人が、アドレナリン作動成分を含む点眼薬を使用すると、眼圧の低下をまねき、その治療を妨げるおそれがあるため、使用前にその適否について、治療を行っている医師等に相談がなされるべきである。
- 2 ソフトコンタクトレンズは、水分を含みやすく、防腐剤などの配合成分がレンズに吸着されて、角膜に障害を引き起こす原因となるおそれがあるため、装着したままの点眼は避けることとされている製品が多い。
- 3 点眼後は、薬液を早く乾燥させるため、数秒間、眼瞼を開いたままにすることとされている。
- 4 眼科用薬に配合されるサルファ剤は、細菌及び真菌の感染に対する効果を有しているが、ウイルスの感染に対する効果はないので、3～4日間使用しても症状の改善がみられない場合には、眼科専門医の診療を受けるなどの対応が必要である。

問 4 3

皮膚に用いる薬に関する次の記述の正誤について、正しい組合せを下欄から選びなさい。

- a 外皮用薬は、表皮の角質層が柔らかくなることで有効成分が浸透しやすくなることから、入浴後に用いるのが効果的とされる。
- b 貼付剤を患部やその周辺に汗が付着した状態で貼付すると、有効成分の浸透性が向上するため、清浄にして貼付することが望ましい。
- c スプレー剤を使用する場合、吸入によりめまいや吐きけ等を生じることがあるので、周囲の人にも十分注意して使用する必要がある。
- d 液剤は、軟膏に比べて有効成分の浸透性が低いことから、じゅくじゅくと湿潤している患部に適している。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	誤
2	誤	正	正	正
3	正	誤	正	正
4	正	正	誤	誤
5	正	誤	正	誤

問 4 4

皮膚に用いる薬に関する次の記述の正誤について、正しい組合せを下欄から選びなさい。

- a 皮膚に温感刺激を与え、末梢血管を拡張させて患部の血行を促す効果を期待して、ノニル酸ワニリルアミド、カンフルが配合されている場合がある。
- b 非ステロイド性抗炎症成分は、コルチゾンに換算して 1 g 中 0. 0 2 5 m g を超えて含有する成分は長期連用を避ける必要がある。
- c フェルピナクについて、小児への有効性・安全性が確認されていないことから、1 5 歳未満の小児向けの製品は製造販売されていない。
- d サルファ剤は、細菌の DNA 合成を阻害することにより抗菌作用を示す。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	誤
2	誤	誤	正	正
3	誤	正	誤	正
4	正	誤	誤	誤
5	正	誤	正	正

問45

皮膚に用いる薬に関する次の記述について、正しいものの組合せを下欄から選びなさい。

- a デキサメタゾン含有する医薬品は、炎症を抑える効果があることから、化膿している患部に使用することができる。
- b インドメタシンは、適用部位の皮膚に、腫れやヒリヒリ感、熱感、乾燥感が現れることがあるため、1～2 cm角の小片を腕の内側等の皮膚の薄い部位に半日以上貼ってみて、皮膚に異常を生じないことを確認することが推奨されている。
- c アトピー性皮膚炎は、一般用医薬品の使用によって対処できる範囲の疾患であり、抗ヒスタミン成分を含有する一般用医薬品を使用すると良い。
- d 非ステロイド性抗炎症成分が配合された医薬品の使用で痛みを抑えられていても、5～6日間使用して症状が治まらない場合は、医師の診療を受けるなどの対応が必要である。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問46

皮膚に用いる薬に配合される成分について、正しいものの組合せを下欄から選びなさい。

- a クロラムフェニコール — 抗真菌成分
- b ミコナゾール硝酸塩 — 抗菌成分
- c リドカイン — 局所麻酔成分
- d ジフェンヒドラミン — 抗ヒスタミン成分

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問47

歯や口中に用いる薬に関する次の記述の正誤について、正しい組合せを下欄から選びなさい。

- a 歯痛薬は、歯の齶蝕による歯痛を応急的に鎮めることを目的とする一般用医薬品である。
- b 齶蝕により露出した歯髄を通っている知覚神経の伝達を遮断して痛みを鎮めることを目的として、アミノ安息香酸エチルが使用される。
- c 歯肉溝での細菌の繁殖を抑えることを目的として、カルバゾクロムが配合されている場合がある。
- d 口内炎用薬には、口腔粘膜の組織修復を促す作用を期待してアズレンスルホン酸ナトリウムが配合されている場合がある。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	正
2	正	正	誤	正
3	誤	正	誤	誤
4	正	正	正	正
5	正	誤	正	誤

問48

歯や口中に用いる薬に関する次の記述について、誤っているものを1つ選びなさい。

- 1 口腔咽喉薬や含嗽薬を使用する場合は、間隔を置かずに使用すると効果的である。
- 2 歯周病については、状態が軽いうちは自己治療が可能とされている。
- 3 口内炎や舌炎が再発を繰り返す場合には、ベーチェット病などの可能性も考えられるため、医療機関を受診するなどの対応が必要である。
- 4 一般用医薬品にも副作用として、口内炎等が現れるものがあり、一般の生活者においては、それが副作用による症状と認識されずに、口内炎用薬による対処を図ろうとする場合があり、医薬品の販売等に従事する専門家は、状況の把握に努めることが重要である。

問 49

禁煙補助剤に関する次の記述の正誤について、正しい組合せを下欄から選びなさい。

- a 咀嚼剤は、噛むことにより口腔内でニコチンが放出され、消化管で吸収されることにより効果を発揮する。
- b 心臓疾患や高血圧、胃・十二指腸潰瘍等の診断を受けた人では、使用している治療薬の効果に影響を生じる可能性があるため、禁煙補助剤を使用する前に治療を行っている医師等に相談するなどの対応が必要である。
- c 禁煙に伴うニコチン離脱症状は、通常、禁煙開始から1～2週間間に起きることが多い。
- d 副作用として、口内炎、消化器症状（悪心・嘔吐、食欲不振、下痢）等が現れる場合がある。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	誤	誤	正	誤
3	誤	正	誤	誤
4	正	正	正	正
5	誤	正	正	正

問 50

滋養強壮保健薬に関する次の記述の正誤について、正しい組合せを下欄から選びなさい。

- a 医薬部外品の保健薬では、神経痛や筋肉痛等の症状に対する効能効果が認められている。
- b ビタミンは、体内の代謝に重要な働きを担うものであることから、ビタミン製剤の過剰摂取による副作用は認められていない。
- c 滋養強壮保健薬を1か月位服用しても症状の改善がみられない場合には、栄養素の不足以外の要因が考えられるため、症状によっては医療機関を受診する等の対応が必要である。
- d カルシウムを含む成分は、胃腸薬等、カルシウムの補給を目的としない医薬品にも配合されており、カルシウムの過剰摂取を生じることがないように留意する必要がある。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	誤
2	正	正	誤	正
3	誤	誤	正	正
4	誤	正	誤	正
5	誤	正	正	誤

問5 1

滋養強壮保健薬の配合成分と配合目的の関係について、正しいものの組合せを下欄から選びなさい。

(配合成分)	(配合目的)
a ビタミンA	— 夜間視力の維持
b ビタミンB1	— 手足のしびれ・冷え、しもやけの症状の緩和
c アスパラギン酸ナトリウム	— 乳酸の分解を促す
d ヨクイニン	— ストレス刺激に対する抵抗力を高める

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問5 2

漢方処方製剤に関する次の記述の正誤について、正しい組合せを下欄から選びなさい。

- a 現代中国で利用されている中医学に基づく薬剤は、漢方薬と呼ばれている。
- b 漢方処方製剤の多くは、刻み生薬の混合物として製造販売されており、煎剤として使用されている。
- c 漢方の病態認識の一つに「虚実」があり、虚の病態が適応となる医薬品は、「体力虚弱で」という使用制限が記載されている。
- d 患者の「証」に合わない漢方処方製剤が選択された場合、効果は得られないものの、副作用を招くことはない。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	誤
2	正	正	正	正
3	誤	正	誤	正
4	誤	誤	正	正
5	誤	誤	正	誤

問53

漢方処方製剤とその適用に関する次の記述について、誤っているものを1つ選びなさい。

- 1 黄連解毒湯は、体力中等度以上で、のぼせがみで顔色赤く、いらいらして落ち着かない傾向のあるものの、鼻出血、不眠症、二日酔い等に適すとされている。
- 2 防風通聖散は、体力充実して、腹部に皮下脂肪が多く、下痢がちなものの高血圧や肥満に伴う動悸・肩こり・のぼせ、肥満症等に適すとされている。
- 3 防己黄耆湯は、体力中等度以下で、疲れやすく、汗のかきやすい傾向があるものの肥満に伴う関節痛、むくみ、多汗症、肥満（筋肉にしまりのない、いわゆる水ぶとり）に適すとされている。
- 4 大柴胡湯は、体力が充実して脇腹からみぞおちあたりにかけて苦しく、便秘の傾向があるものの胃炎、常習便秘、高血圧や肥満に伴う肩こり等に適すとされている。

問54

漢方処方製剤及び生薬製剤に関する次の記述の正誤について、正しい組合せを下欄から選びなさい。

- a 漢方処方は、それ自体が一つの有効成分として独立したものであり、自己判断によって生薬成分が追加摂取された場合、処方が成立しなくなるおそれがある。
- b 生薬成分は、医薬品としてのみ流通しており、食品としては流通していない。
- c 生薬には、動植物由来の成分以外は含まれない。
- d 生薬製剤には、少量で強い作用を示すものがあるため、医薬品の販売等に従事する専門家においては、適切な医薬品を選択することができるよう積極的な情報提供を行うことに努める必要がある。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	正	正	誤	正
3	正	正	正	誤
4	誤	正	誤	誤
5	誤	誤	正	正

問 5 5

生薬成分と薬用部位の関係について、正しいものの組合せを下欄から選びなさい。

	(生薬成分)		(薬用部位)
a	ブシ	—	偽果
b	サイコ	—	根
c	ボウフウ	—	菌核
d	レンギョウ	—	果実

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問 5 6

感染症の防止と消毒薬に関する次の記述について、誤っているものを1つ選びなさい。

- 1 殺菌・消毒は生存する微生物の数を減らすために行われる処置である。
- 2 消毒薬が微生物を死滅させる仕組み及び効果は、殺菌消毒成分の種類、濃度、温度等により異なるため、殺菌・消毒の対象となる微生物を考慮し、適切な医薬品を選択する必要がある。
- 3 消毒薬を誤って飲み込んだ場合の応急措置として、多量の牛乳や卵白を水に溶いた卵白水を飲ませると良い。
- 4 消毒薬が誤って目に入った場合、早期に消毒薬を取り除くため、強い流れの水で15分間以上洗眼すると良い。

問57

消毒薬に関する次の記述の正誤について、正しい組合せを下欄から選びなさい。

- a クレゾール石鹼液は、結核菌を含む一般細菌類、真菌類に対して比較的広い殺菌消毒作用を示すが、大部分のウイルスに対する殺菌消毒作用はない。
- b イソプロパノールは、ウイルスに対する不活性効果がエタノールに比べて高い。
- c 次亜塩素酸ナトリウムは、一般細菌類、真菌類、ウイルス全般に対する殺菌消毒作用を示すが、通常、人体には用いられない。
- d ジクロルイソシアヌル酸ナトリウムは、プール等の大型設備の殺菌・消毒に用いられることが多い。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	誤	正	誤	正
3	正	正	誤	誤
4	正	誤	正	正
5	誤	誤	正	誤

問58

衛生害虫及びその防除に関する次の記述について、正しいものの組合せを下欄から選びなさい。

- a ウジの防除法としては、通常、有機リン系殺虫成分が配合された殺虫剤が用いられる。
- b ゴキブリの防除において、燻蒸処理を行う場合、医薬品の成分はゴキブリの卵の殻を透過するため、一度の処理で効果を発揮する。
- c イエダニは、ネズミを宿主として生息場所を広げていくため、まず、宿主動物であるネズミを駆除することが重要である。
- d 殺虫剤使用に当たっては、同じ殺虫成分を長期間連用することが望ましい。

1 (a、b)	2 (a、c)	3 (b、d)	4 (c、d)
---------	---------	---------	---------

問59

殺虫剤及び忌避剤並びにその留意事項に関する次の記述の正誤について、正しい組合せを下欄から選びなさい。

- a フェノトリンは、シラミを駆除する目的で使用されるが、人体に直接適用することはできない。
- b プロポクスルは、アセチルコリンエステラーゼと不可逆的に結合することにより殺虫作用を示す。
- c ディートを含有する忌避剤は、生後6か月未満の乳児への使用を避けることとされている。
- d 有機塩素系殺虫成分は、我が国では広く使用され感染症の撲滅に大きな効果を上げており、現在でも様々な昆虫を対象として使用されている。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	誤	正	正	正
3	正	正	誤	誤
4	正	誤	正	誤
5	誤	誤	正	誤

問60

一般用検査薬に関する次の記述について、正しいものの組合せを下欄から選びなさい。

- a 検査薬において、検体中に対象物質が存在しているにもかかわらず、検査結果が陰性となった場合を、擬陽性という。
- b いかなる検査薬においても、擬陰性・擬陽性を完全に排除することは困難である。
- c 一般的な妊娠検査薬は、月経予定日が過ぎて概ね1週目以降の検査が推奨されている。
- d 尿糖検査薬は、尿中の糖の有無を調べるものであり、当該検査薬の使用により尿糖が陽性となれば、その検査結果をもって直ちに糖尿病と判断できる。

1 (a、c) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (b、d)